

## はじめに：教材のコンセプトと作成の目的

この教材は、文化庁平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業－地域日本語教育実践プログラム(A)「定住外国人の漢字学習支援」(受託団体：多文化共生センター大阪)で実施した3つのプログラムのうちの1つ「日本語教育のための学習教材の作成」によってつくられたものです。

簡単な日常会話ができて、ひらがなとカタカナの読み書きがほぼできるくらいのレベルの非漢字圏出身の人たちが、初めて漢字を勉強するためにつくられました。ひとりで学習するというよりは、日本語ボランティアや友達などの学習支援者といっしょに学習することによって、より大きな効果が出るように考えられています。

今までも、外国人が漢字を勉強するための教科書はたくさんありました。しかし、それらは「生活者としての外国人」が毎日の生活で出会う漢字を意識してつくられたものではありません。ですから、普通の漢字教科書で勉強していれば、毎日読まなければならない重要な漢字が読めて意味がわかるようになるまでに何年もかかってしまいます。子どもが学校からもらってくる手紙が読めるようになった時には、もう子どもは学校を卒業してしまっているかもしれません。それは大きな問題です。

そこで、わたしたちは「今日、勉強したこと」が「今日、生活のなかで使える」漢字教育を行うこと、そのための教材をつくることを目指しました。「簡単な漢字」から学習するという今までの漢字教育の考え方ではなく、「生活に必要な漢字のことば」から順に学習するという「生活者」の視点で教材を作成しました。毎日の生活に密着したテーマを取り上げて、生活のなかで見る漢字のことばを、それが使われている場面や背景といっしょに切り取った写真を素材にしています。街や生活のなかで見る漢字に興味を持ち、文字として認識する力をつけること、また、漢字を書くことより、何かの情報を得るために読めるようになることが目標です。そして何よりも、漢字に興味を持って、学習を続けていこうと思うようになることを、第一の目的としています。

何年も、何十年も日本に暮らしているのに、漢字がわからないために、日常生活に苦勞したり、行動範囲が狭くなったりしている外国人がたくさんいます。この教材が、そういう人たちの生活を豊かに、楽しくするために役に立てば、とてもうれしく思います。

2017 年 3 月 しっぴつしゃいちどう  
執筆者一同